

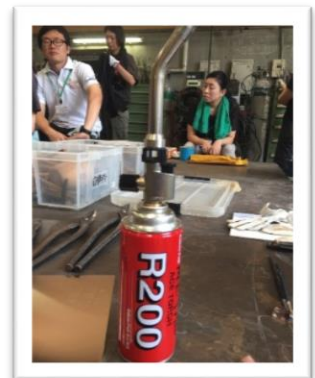
平成29年度 研究部主催 夏季実技研修会

夏季実技研修会は今年で9回目となり、県内の意欲的な先生方の研修の場として、研究部員が講師となって実技研修や実践報告、参加者による研究討議、指導要領についての学習会などを行ってきました。

今年度は女子美術大学芸術学部美術学科立体アート専攻の平戸 貢児教授のご協力で大学との連携を行う企画をたて、8月10日（木）に金属加工と石材加工の2本立ての内容で開催をしました。参加者は40名を超え、午前中の実技研修では金属加工は平戸 貢児教授、石材加工は天野 浩子先生のご指導のもと、本格的な技術と機材を使った研修会を行いました。

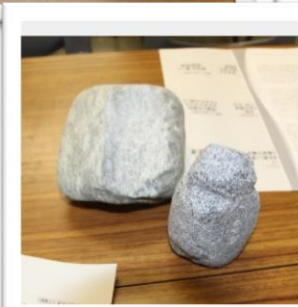
3, 4名のグループになり材料の加工や発想をどのように授業に生かせるかをテーマとして制作を進めました。金属は銅板の焼きなましやろう付けその他の接合方法を教わり、それぞれ金槌で思い思いの形を作っていました。石材は石の特徴を学び、のみで石と格闘をしていました。

皆さん学生時代を思い出したようで時間を忘れてほとんど休憩も取らずに熱心に制作に没頭していました。



午後からはグループごとに「神奈川の明日を担う子ども」を考えて午前中体験した素材を生かした授業づくりを検討して「つけさせたいカチェックシート」にまとめ、発表をしました。指導事項やつけさせたい力を考え話し合うことでより良い授業を考えるきっかけとなりました。その後、研究部副部長の鈴野先生から指導要領の確認やポイントの解説、新指導要領の項目の確認を自作の指導要領カードを用いてわかりやすく説明がありました。

今回は事前準備から女子美術大学の平戸先生をはじめ、助手の方々などの多大なご協力があり、普段できない素晴らしい研修ができ、他機関との連携の実践例にもなりました。真夏の暑い中、準備・参加されたすべての方々に感謝するとともに、この研修会のような活動が全県的な広がり、神奈川の美術科の教員がより元気になることを願っています。（文責・写真：研究部 渡辺 重之）



今回は生徒の現状を省いて話し合います。基本的に順番を飛ばさず、上から下に順序よく書き込んでください。途中で方向変換することもあるで、その度にながら下に向かって【付けたい力】がぐわいという目算しながら、シートを完成させてください。

付たいカー①(学習指導要領に則って、子どもにもわかるような言葉に相替する)

生活の中で大事にしていること 科学
— 食 — 実験
— 菜花とアリと花びら — 工作と工業製品の違いを感じる

① を身につけると、生徒はどんな風に成長する？（子どもが実感を伴う言葉で書く）

生活の中 素材への意識が変わる
見方の幅が広がる

① を身につけるためにふさわしい学習活動は？ (○をつける)
表現 (描く活動 ・ 作る活動) ・ 鑑賞

どの資質・能力を主軸に授業を考えていく？ (○をつける)

関 ・ 発 ・ 創 ・ 鑑

どんなしかけ(手立て)が必要?(どんな学習方法・表現方法がよいか)

③ いよいよ素材のスポンジ本体

↓ スコアを見せろ (才能検査のせい)

① 米、水、豆 72g をすく、2 分 3

↓
要人(要人)

【評価について】 この題材で、生徒の力を見取る場面と内容（観点）

学習指導要領の指導事項は、(部 にアイウを入れて完成させる)

□A表現 (1) _____ (3) _____ □A表現 (2) _____ (3) _____
□B鑑賞 (1) _____

授業名は、

愛する人のためのとろけるアイスクリームスポンジ 決まり!

7c3u!

省いて話し合います。基本的に順番を飛ばさず、上から下に順序よく書き込
み方向変換することもあるので、その度に上から下に向かって【付けたい力】
ながら、シートを完成させてください。

付けたい力←①（学習指導要領に則って、子どもにもわかるような言葉に租借する）

新しい素材、技法の紹介、造形活動を通じて、蕃村の良さや他の表現の良さに気付く。粘り強く表現し続ける態度。

素材の中にある“美”に気づかせる

① を身につけると、生徒はどんな風に成長する？（子どもが実感を伴う言葉で書く）

新しい素材や技法を知り、その良さを美はに気づき、日常生活の中にあるものの見方や伝え方が変わる。美術を愛好する心が育つ。

① を身につけるためにふさわしい学習活動は？ (○をつける)
表現 (描く活動 ・ つくる活動) ・ 鑑賞

どの資質・能力を主軸に授業を考えていく？ (○をつける)

閱 · 免 · 創 · 鑑

どんなしかけ(手立て)が必要？(どんな学習方法・表現方法がよいか)

15. 84000 (即 84000 - 15 中 15) 11 (14 除)

↓ フル通り ワークシ + 内容大事: 全体之共有

体験の気づき元に、何が起るか、造形をみかへ考えさせろ。(工芸的表現)

↓
制作

【評価について】 この題材で、生徒の力を見取る場面と内容（観点）

④ 授業の様子、ワークシートの内容 (教材についての受け取り、作者の受け取りを元に考えを述べる)

① 見直しと下制作の様子、素材の特性や扱い方を生かして表現しているか

予習指導要領の指導事項は、(部)にアイウを入れて完成させる)

□A表現 (1) _____ (3) _____ 也A表現 (2) 3.7 (3) 3.1
□B箇所 (1) _____

業名は、